

シラバス詳細

タイトル「2024年度シラバス」、カテゴリ「(共通)」

科目情報

< 3 / 11件 >

科目名

日本語IV

講義名

日本語IV A

クラス

A

担当教員

井本 亮(e060@ipc.fukushima-u.ac.jp)

実務経験のある教員による講義

学年

2年、3年、4年

キャンパス区分

金谷川キャンパス

開講学期

後期

開講時期

(後期)

曜日・時限

火1

講義室

講義室未設定

科目種別

通常講義(学類)

ナンバリング

g25k0040

科目区分

日本語

単位区分

選必自由

単位数

1

準備事項**備考****特修プログラム****直接参照URL**

https://livecampus.adb.fukushima-u.ac.jp/lcu-web/SC_06001B00_22/referenceDirect?subjectID=047340155039&formatCD=1

教育目標との関係(DPポイント配分)

基盤教育	基盤教育	最新の専門知識及び技術	30	%
		本質を見極めるための教養と学際性	30	%
		協働的な問題探究	10	%

社会の改善につなげる創造性	20	%
市民としての主体的態度	10	%

授業方法

講義、演習、グループワーク、発表、ディスカッション、ICT機器の活用

講義情報

授業概要とねらい

〔概要〕

この授業はレポート・筆記試験・論文などのための「資料を用いて論理的に書く能力」の向上を目的とする。

〔ねらい〕

レポート等の作成にあたっては、情報収集・分析・要約・作文などの多角的な技術が求められるが、特にレポート・論文のための文章は会話や携帯メールとは異なる文体と論理構成を持つため、そのアウトプットの技術を習得する必要がある。同時に関連文献を適切に読解し、簡潔に要約し、自分の意見（コメント）を付し、あわせて「正しい引用と出典」のリファレンス技術を確実に習得するというインプット技術の向上も重要である。本学の日本語科目の総仕上げとして、現代社会の今日的課題からトピックを選び、資料の論点整理と引用のための適切な読解「パラグラフリーディング」、そして、自分の主張を論理的に構成・展開する「パラグラフィティング」を学んだのち、リサーチ・ペーパーの作成演習を行い、各自のリサーチ・ペーパーを完成させる。

〔カリキュラムにおける当該科目の位置付け〕

- ・外国語リテラシー（幅広い教養3-①）
- ・学問的思考の基礎（幅広い教養2）
- ・多角的・総合的思考（幅広い教養1）
- ・自己形成力／自己学習力（自己形成力1）

単位認定基準

- (1) 文法的に誤りのない文を作ることができること。文法的な誤りを発見できること。
- (2) レポート・論文に適当な文体および表現を用いて文を作ることができること。
- (3) 授業への出席、授業中の課題作成や発言、自己学習などを通して主体的に授業に参加していると判断できること。

授業計画

- 第1回)イントロダクション：パラグラフリーディングとは
- 第2回)パラグラフリーディング練習問題①：語彙・文法（単文分析）
- 第3回)パラグラフリーディング練習問題②：パラグラフ構造分析
- 第4回)パラグラフリーディング練習問題③：パラグラフ要約
- 第5回)パラグラフリーディング練習問題④：コメントパラグラフ作文
- 第6回)パラグラフリーディング雑誌記事①：語彙・文法（単文分析）
- 第7回)パラグラフリーディング雑誌記事②：パラグラフ構造分析
- 第8回)パラグラフリーディング雑誌記事③：パラグラフ要約
- 第9回)パラグラフリーディング雑誌記事④コメントパラグラフ作文、レビュー作文
- 第10回)パラグラフリーディング雑誌記事⑤パラグラフ要約ピアレビュー
- 第11回)パラグラフリーディング学術論文①：語彙・文法

- 第12回) パラグラフリーディング学術論文② : パラグラフ構造分析
第13回) パラグラフリーディング学術論文③ : パラグラフ要約
第14回) パラグラフリーディング学術論文④コメントパラグラフ作文、レビュー作文
第15回) ⑤パラグラフ要約ピアレビュー火曜クラスのみまとめ

※受講生の日本語能力・到達度・理解度を重視し、補助的・派生的・発展的な内容を追加的に導入することがあるため、授業の進度に変更が生じる場合がある。

授業計画（週形式）

教材・教科書

アカデミック・ライティングに関するテキストとして『Good Writingへのパスポート』『大学生のための文章表現&口頭発表練習帳』『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』を使用する予定。その他、ハンドアウト・資料を配布する。受講に必要な読書リストは授業中に指示する。つねに日本語辞書を持参することつねに国語辞書を持参すること（電子辞書でもよい。ただし、スマートフォン・携帯電話・iPadなどタブレット端末の使用は教員の指示に従うこと）。

※課題提出や授業連絡にGoogle Classroomを使用するので、受講までにIPCアドレスで登録準備をしておくこと。クラス参加登録の準備ができ次第、Live Campusから履修登録者に周知する。

※LINEオープンチャットを用いてクラス内での情報共有や協働学習を行うことがある。LINEアプリが使えるスマートフォン等を持参すること。

参考図書

『教師と学習者のための日本語文型辞典 / グループ・ジャマシイ編著』『同・ベトナム語版』『同・韓国語版』『同・英語版』

参考URL

<https://www.lib.fukushima-u.ac.jp/opac/rmbook/?lang=0&rmttype=1&reqCode=list&dptidpl=1&rmkey=51&rminf=%E4%BA%95%E6%9C%AC%20%E4%BA%AE&rmnm=&codeno=7>

授業外の学修、及び必要な学修時間

読解要約作文「レビュー」のための資料収集およびレビューの提出がほぼ毎回ある。課題の提出を前提にした反転授業のスタイルを取ることが多くなるため、そのための準備として毎週、授業2コマ程度の自己学習が求められる。毎週、授業2コマ分程度の自己学習が求められる。毎週、メール作文の課題などを課す。
(単位制に基づき、少なくとも15時間の授業外学修時間を必要とする)

成績評価の方法

宿題&課題提出・期末平常レポート・予習を含めた授業への主体的参加を評価する平常点の総合評価によって以下の目安にしたがって成績評価を行う。課題提出と授業の主体的参加の重要性は特に高い。

成績評価の基準

- S：単位認定基準を満たし、かつ全ての項目で優秀な学修成果をあげた（90～100点）
- A：単位認定基準を満たし、かつ多くの項目で優秀な学修成果をあげた（80～89点）
- B：単位認定基準を満たし、かついくつかの項目で優秀な学修成果をあげた（70～79点）
- C：単位認定基準を満たす最低限の学修成果をあげた（60～69点）
- F：単位認定基準の学修成果をあげられなかった（～59点）

オフィスアワー

金曜日10:30～12:00。その他の曜日時間帯も応相談。まず、アポイントをとること。

授業改善・工夫

オンラインサービスを活用し、資料配布・授業連絡・情報共有・課題提出・ディスカッション・成果物のアーカイブなど、能動的活動のための環境を整備する。

留意点・注意事項

この科目は【学類留学生・研究生対象科目】である。

この科目には火曜日のAクラスと木曜日のBクラスがある。

この科目の履修には3つのパターンがある：①AとBの両方、②Aクラスだけ、③Bクラスだけ、である。

この後で日本語IV（A/B）を履修するためには、この授業の3パターンのどれかひとつで履修しておかなければならない。卒業に必要な単位を日本語で習得することを考えている人は①AとBの両方がよい。

教員の実務経験の有無